第 2015-16 号

恵みと真理のニュース

2015 年 4 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

神様は私に十二年間も出血の止まらない女が癒されたように 驚くな治療の奇跡を与えてくださいました

私は行政職の公務員で市役所で勤務しました。同僚と隣りの家で住むおばさんが熱心に私を伝道しました。当時私は偶像崇拝するのをとても嫌いでしたが福音も断る神を信じないものでした。特に旦那は強く教会に行く事を反対していました。ある日主日になっておばさんが家に来られ“教会に行きましょう。早く行きましょう。”せめると旦那は外に出て教会に行かないように迫害しました。そのおばさんにも早く帰ってください。と言って私だけ困りました。
2男２女を産んでながら8歳になる時に願わなかった妊娠をして仕方なく寒い時に掻爬手術を受けました。そして三日ぶりに出勤しました。家から市役所まで8分もかからない近い距離が行く道に二桃が張りにさしたように痛かったです。出産した事と同じように休んだ方が良いけど出来ませんでした。日々が経って両方の膝が痛くて痺れて冷たい氷を置いたように寒くて痛かったです。産後風にかかりました。母が一ヶ月間知っている方法で産後に良い物を全部してくださいましたが効果がなかったです。
旦那は私と結婚する前、司法試験の勉強をしながら一時期仏教信者になりました。子供を寝かす時には聞きたくないのに旦那は仏敬を読みました。私が酷く苦痛する時に外で占いをして帰って来て“私がもし痛いになると死ぬかもしれないがあなたが私の代わりに痛くてあなたは死なない。と占い師のことを伝えるほどです。母も旦那と同じように偶像崇拝を信じる方で占い師に多くのお金を払いお札を買って旦那の体に貼るようにさせました。
親と妹弟達が送ってくれるお金で薬を飲み、漢方病院、病院、薬局かまわず、有名な所を全て探してみても何の意味もありませんでした。旦那と母は私の体に鬼がついていたから2泊3日間遠い 巨済島まで行って特効果がある薬を買って食べさせてお父さんは嫌悪な物を持ってきて体に良い物だとうそをついて食べさせました。6ヶ月以上痛い足で職場に通うのがすまなくて二回も辞職願を出したが上から返されました。これまで誠実で熱心に仕事をしたことを認めてくださり、病気が治ってからまた勤務するように配慮をしてくださいました。お母さんが来て一週間食べるおかずを準備して置いて行かれたら、旦那がご飯をして子どもたちを用意して学校に送って、そして私のために部屋に便器を置いてやっと出勤するなど、旦那が苦労しました。その間　経済的に難しくて私が親に“家まで売れなければならないのでもうこれ以上私のためにお金を使わないでください、私はもう死ぬ体ですが生きている人は楽に生きなければならないと言うほど苦痛でした。
結局姑は閉口しました。隣りの叔母さんの証を聴いて旦那に人々やる事は全部やったが仕方なかったので他の方法がないのだ神様に委ねるしかない。教会に行きましょうとしました。今まで半年間ねだっても動かなかった旦那も“教会に行くなら一人に行って！”としました。病院にお見舞いした職員に教会に行きたいと言ったら恵みと真理教会を勧めました。
他の教会に通っていた隣り家のおばさんの助けでタクシーを乗って教会まで行き礼拝に参席しました。説教が終わって一緒に祈りをして始めの祈りでしたが私の口から“神様、今まで私の赦してください。健康な時には神様を捧げなくてこのように足を使えなくなってから神様を探して本当にすみません。
私を癒してくださると神様を信じて生きます。涙と鼻水を流し祈りました。結婚生活が苦痛で姑と旦那の家族を憎んだ事を旦那を心から憎んだ事を思い出しながら神様に悔い改める祈りをしました。続けて牧師の神癒と祝福祈りをしてくださいましたが痛い膝に手を置いて牧師の言う御言葉のとおりに祈る時に急に牧師が立っているところから熱い何かが私に入りましたが、眩しいほど明るく光りました。真に驚くな事でした。聖霊の火の権能が望んだのです。私の体がすぐ治ると確信になりました。家に帰って礼拝時間に歌った賛美歌が思い出して歌いました。“私の道に主が光を与え”という賛美は私が好きな賛美歌になりました。何日後、私が家を歩いて行ったり来たりしました。初めは夢だと思いました。どころが夢ではなく現実でした。初め教会に行った時には体が痛くて教会の名前さえも覚えませんでした。再び行ったら恵みと真理教会でした。その日祈ってくださった牧師がチョヨンモク牧師でした。言葉では表現できない喜びと感激と感動の中で今まで入った７つの靴下と服を捨てきれいなスットキングをはいて嬉しく教会に行きました。どころが時間が過ぎて旦那が給料を除いて私の給料で少し十日献金を払い神様に捧げ誰よりも献身しないのにそれも出来ないことが気にかかりました。教会で強制的に言ったのではないのに負担になりました。それで旦那の話だけ聞いて教会を休みました。そしたら、再び足が痺れてました。治る前よりもっと靴下と服を着ても体は痛かったです。“神様、これからは裏切りません。神様私の体が治るように導いてください。教会に行きます。天国に入るようにしてください。”神様に悔い改めて教会に戻ってきました。そしてどんな苦難が来ても揺れない信仰生活をするようになりました。もう一度神様は私に愛と慈しみを与えてくださいました。私の体が健康になりました。そのように癒されそれによって旦那も子供達もみんなイエス様を受け入れました。特に長男と長女はざまざまなタレントが多くて私より主を仕えるようになりました。
カチョン聖殿で礼拝をして教師として奉仕しているときでした。私が平日に礼拝が終わってからきれいに環境整理をしている時に当会長牧師が何回も教会学校まで来て私達を慰め祝福してくださいました。牧師のその姿が今も生々しいです。聖歌隊員もやり区域長、首区域長、勧士、職分を受けて教会を仕えましたがインチョンに引越ししました。ここでも恵みと真理教会があって御言葉と聖霊に充満な礼拝を捧げ仕えることが出来て神様に感謝しています。
教区長と共に訪問をして聖徒達のため慰め励まして不信者に伝道することが真に楽しくて幸せです。昔の会社の同僚が伝道すると“イエスを信じるなら私の手を信じる”と言ったほど高慢で疎かな者でした。そんな私をどれほど愛したか私の足を折って再び回復してくださり神様の尊い子供としてまた生まれました。そして、使えることは今も足りないですが、心たけはこの世の中で誰よりも神様を愛する子供とさせてくださいました。良い神様は今日も私と家族に“あなたの魂が恵まれているように、あなたがすべての面で恵まれ、健康である”恵みを与えてくださいます。“イエス様は昨日も今日も明日も相変わらず私を愛します。”“私も相変わらずイエス様だけを愛します。”ハレルヤ！

[信仰コラム]

天 国 の 秘 密

″…「あなたがたには、天国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていない。おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう。…″(マタイによる福音書 13:10～17)

概して比喩はどんな事物に関して説明しようとする時に理解を助けるために使います。 イエス様の比喩もそうだが　また他の面があります。 イエス様が比喩でおっしゃったのがどんな人々には霊的な奥深い真理を易しく理解されさせるが他の人々には悟ることができない秘密になります。 神様に選ばれた者と選ばれることができなかった者等があるからです。 マタイによる福音書 13 章に記録されたイエス様がおっしゃった七つの天国の比喩は天国の性格を現わしているし天国の民になる人々が分からなければならない体験することを意味しています。 イエス様が啓示なさった天国の秘密は四つの部類で分けることができます。
第一秘密は　種をまく比喩に啓示されました。
神様のお言葉は種で人の心は畑です。 心の畑には四つの種類があります 道ばたのような心畑があります。 人本主義的な思想と哲学で固まった人の心にはお言葉が落ちても植えられないです。 石地のような心の畑があります。 神様のお言葉を喜びで受けるが患難と逼迫が近付けば倒れます。 いばらの地のような心畑があります。 俗事によって果てしなく気づかって世の中に誘惑のため揺れることでお言葉が実ることができないです。 良い地のような心畑があります。 壊れて低くなった心で神様のお言葉を受けてそのまま収容します。 神様のお言葉は三つの種類の結実を結ばせる種です。 魂がよくできさせる種、凡事によくできさせる種、壮健にさせる種です。
神様のお言葉をきいて信じながら従順する時に神様の国の性格が私たちの魂と凡事と肉体を通じて 30 倍、60 倍、100 倍で日々に豊富に実るようになります。
二番目　秘密はからし 種の 比喩と パン種の 比喩に啓示されました。
この二つの比喩は天国の性格が成長と拡張で発展と向上をもたらすのを意味します。 イエスキリストを信じて迎接して神様の国の性格を持った人はどの所へ行こうが福音を伝えて多くの人を神様の国民にならせます。 また. クリスチャンの生は日々に発展して向上します。 魂が生まれかわった後神霊な知恵と知識が日増しに加わって霊的に絶えず発展して向上します。 肉体は歳月よって老けることを阻むことができなくて結局は死に至るようになるがイエスキリストが再臨なさる時に聖徒は復活の光栄さに参詣します。 片面で見れば腐るのに総体的に見て存在の全体は常に新しさを着て向上発展します。
三番目　秘密は ’畑に隠してある宝の比喩と ’ 良い真珠’ の比喩に啓示されています。
この二つの比喩は天国福音の真価を見つけた人の生の態度がどのように変化されるのをおっしゃってくれます。 案外に宝を見つけた人でも、手まめに探してから見つけた人でも彼らはすべての価値と意味をその中で見つけたからすべてのものを売ってこれを買いました。 今まで貴重に思ったことをあきらめて捨てたことを志ざします。 福音を逆う思想と理念、自分の善行と業績、世俗的な快楽などをすべて捨てることを意味します。 また天国で得るようになる称賛と光栄と尊貴のために世の中の地位、名誉、権勢、物質を使うことを意味します。
四番目　秘密は ’畑の 毒麦 ’ の 比喩と ’ 魚の選別’ の比喩に啓示されています。
この二つの比喩は必ず近付く神様の審判があうのを言ってくれて天国で住むようになる人と地獄に投げ込む人が区分されることを言ってくれます。 畑の毒麦の比喩は現在は クリスチャンではない人も クリスチャンのように行動することができるが必ず分離する日があることを見せてくれます。 魚の選別の比喩は不信者は徹底的に選別されて地獄の刑罰に処するようになることを見せてくれています。 世の中では地位、権勢、名誉、物質、外見、能力、人品が人を分別する基準になるが天国での選別の基準は ’イエスキリストを信じて生まれかわった者なのか、ないか’ です。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

聖霊バプテスマと異言

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

今日は “聖霊バプテスマと異言”に関してよく見ます。 聖霊バプテスマと異言の関係が分かろうとすれば新約聖書の使徒行伝をよく見なければなりません。 使徒行伝には聖霊バプテスマを受ける場面が皆五回に記録されています。その五回の事例は地域と民族と聖霊バプテスマを受ける人の数字と状況そして現われた現象が多様です。 しかし共通要素があります。

第一は 使徒行伝 2 章に記録された五旬節に聖霊降臨の場面です。

イエス様が天に昇りなさった後イエス様に付いた人々の中で百二十人が心を一緒にして祈祷に専念しました。 こんなに集まって祈ってから十日になる日の五旬節でした。 彼らが皆一緒に１ヶ所に集まっている時一遍に聖霊バプテスマを受けました。 この時に三つの特別の現象があります。 これは耳できくことができるし、目で見られるし、口で言うようになる現象です。その所に集まった弟子は “急で強い風のような音”を聞きました。 “激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっぱいに響きわたった。また、舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりびとりの上にとどまった。”のを見ました。そして自分たちの意志によらなくて “聖霊が言うようになさることに付いて他の異言”を言いました。

二番目は 使徒行伝 8 章に記録されたサマリア人々が聖霊を受ける場面です。

エルサレム教会に逼迫が近付くと使徒以外の聖徒が隣近地域で散らばりました。 この時ピリポ執事がサマリアに行って福音を伝えたが福音を信じた幾多の男女が水でバプテスマを受けました。 この消息をきいた使徒がペテロとヨハネをその所に行かせました。 二人の使徒がサマリア信者の上に按手したら彼らが聖霊を受けました。 この時魔術師であったシモンが使徒の按手で聖霊が臨むことを見て使徒にお金をあげながら聖霊を受けさせる権能を自分にもくれと言いました。 するとペテロが彼をとがめました。 サマリア人々が聖霊を受ける時異言を言ったという記録はないがシモンが聖霊が臨むことを見たということは異言がその現象で現われたと推正しても度が外れた判断ではないです。

三番目は 使徒行伝 9 章に記録されたパウロが聖霊を受ける場面です。

パウロは教会を逼迫することが神様を仕える事であると思って教会を逼迫するのに熱心を出しました。 彼はクリスチャンを探し出して監獄に越すためにダメセックを向けて去りました。ところでダメセック近くでパウロは復活したイエス様の音声をきくようになったしその後 180 度に変わって福音を伝えるのに生涯を捧げるようになりました。 パウロがダメセックに入って行って三日の間に見られずに全然食べない時アナニアが神様の指示を受けてパウロを尋ねて来ました。

アナニアはパウロに按手しながら言うのを “そこでアナニヤは、出かけて行ってその家にはいり、手をサウロの上において言った、「兄弟サウロよ、あなたが来る途中で現れた主イエスは、あなたが再び見えるようになるため、そして聖霊に満たされるために、わたしをここにおつかわしになったのです」。”（使徒行伝 9:17）しました。 ここにはパウロが聖霊を受ける時異言を言ったという記録がないです。しかし コリント人への第一の手紙によって推理をすればパウロがその時異言を言ったことと判断しても無理がないです。 パウロは記録するのを “わたしは、あなたがたのうちのだれよりも多く異言が語れることを、神に感謝する。”（コリント人への第一の手紙 14:18）しました。

四番目は 使徒行伝 10 章に記録されたコルネリオの家に集まった人々が聖霊を受ける場面です。

神様は百卒長コルネリオとその家人々が福音をきいて救いを得て聖霊を受けるように、コルネリオと使徒ペテロ皆に幻想で彼らに行う事を指示しました。 ペテロがコルネリオの家へ行ったらコルネリオが自分の親戚らと近い友達を呼んでおいてペテロを待っていました。 ペテロはイエス様の死と復活に対して証言しながらイエス様を信じる者が罪の赦しを受けると言いました。 ペテロがまだこの話をしている時に聖霊がその言葉をきくすべての人に臨みました。ペテロと一緒に来た信者が異邦人にも聖霊を注いでくださったことのため皆が驚きました。使徒行伝 10 章 46 節に記録されるのを “それは、彼らが異言を語って神をさんびしているのを聞いたからである。”と言いました。 その時ペテロが言うのを “私たちと同じく聖霊を受けたこの人々に水でバプテスマを与えることを誰が禁止することができるか?” して彼らにイエスキリストの名前でバプテスマを受けなさいと言い付けました。

五番目は 使徒行伝 19 章に記録されたエペソ教人が聖霊を受ける場面です。

パウロが第 3 次伝道の旅行の中にエペソ教人に聞くのを “あなたがたが信じる時に聖霊を受けたか?” しました。 彼らは聖霊があるのもきくことができなかったと答えました。 パウロが彼らに何のバプテスマを受けたかと尋ねたら彼らはヨハネのバプテスマを受けたと答えました。 これは悔い改めのバプテスマだったからパウロはイエスキリストの名前で受けるバプテスマに対して説明して彼らにイエスキリストと連合を意味するバプテスマを与えました。そんな後バプテスマ受けた者等にパウロが按手したら彼らに聖霊が臨むので異言も言って予言も言いました。 皆１０人ほどなりました。
学者の中には聖霊バプテスマを受ける五回の事例に対して福音が広く伝えなかった時代に宣教のために例外的な事件であると言います。 しかし信者が聖霊を受けて異言を言った事件は一回にやめたのではないです。 エルサレムで 120 人余りが聖霊で充満するようになって他の異言で言い始めた時を基準にして約 5 年後にパウロが聖霊バプテスマを受けました。 コルネリオの家内が聖霊を受けて異言を言ったことは約 10 年後のことです。 コリント教会は 20 年後のことです。 エペソ教人が聖霊を受けて異言を言ったことは 23 年の歳月がずっと去ったことです。 今日も聖霊を受けて異言を言う現象は続いています。 聖霊臨むに対して使徒行伝に記録された五つ場面で使われた用語をよく見ればこのようです。 エルサレム屋根の裏部屋に集まった 120 人には聖霊のバプテスマ、聖霊の臨み、聖霊の充満し、聖霊を注ぐと言いました。

サマリア信者の場合は聖霊下り、聖霊を受けるだと言いました。 コルネリオ家の場合は聖霊の注いでくれる、聖霊が臨み、聖霊のバプテスマ（使徒行伝 11:16）と言いました。 パウロの場合は聖霊で充満すると言いました。 エペソ教人の場合は聖霊が臨むとしました。 聖霊のバプテスマ、聖霊の臨み、聖霊の充満し、聖霊を注ぎ、聖霊下り、聖霊を受けるという用語が同じ意味で使われました。
総合的に整理して見れば、こんなに説明することができます。
イエスキリストを信じて新しく生まれかわったことを “聖霊でバプテスマを受けたこと”と指称することができるが “聖霊で充満を受けた。” と指称することはできないです。 “聖霊バプテスマ”という用語は聖霊で生まれかわることと聖霊で充満し受けること二つの方面に対して皆使われることができます。 聖霊で生まれかわる同時に聖霊で充満するようになる場合があることができるが、聖霊で生まれかわったと言って皆が聖霊充満の状態ではないです。だから信者に “聖霊でバプテスマ受けなさい。”というのは “聖霊充満を受けなさい。”という意味になります。 そして聖霊バプテスマを経験した信者に “重ねて聖霊充満を受けなさい。” と言えても “重ねて聖霊バプテスマ受けなさい。” という言葉は適当ではないです。 先入観や偏見を捨ててよく見れば聖霊バプテスマを受けるすべての場面で異言が普遍的な証拠のようになっているという事実を否定することができないです。
それなら異言を言えない人々は果して聖霊バプテスマを受けることができなかったことかと言う重要な質問が申し立てられます。 また聖霊バプテスマの主眼な福音伝道を熱心にして効果的な結実を結んでいる人でも異言を言わないから聖霊バプテスマを受けることができなかったと断定することができるかと言う質問も出ます。使徒行伝に記録された聖霊バプテスマを受ける五つ事例で三回はとても明らかに聖霊を受ける時に異言を言ったという証拠があって残り場合にも異言を言ったということを否定することができない状況的な証拠があります。 しかし聖霊バプテスマ受ければ必ず異言で言うようになると断定することができないです。 聖霊を受ける時に異言が必ず隋伴されなければならなかったら、聖霊が聖書の記者にとってその部門を逃さないで明示するようにしたはずです。 異言を言うことは各個人の個性や自我意識と密接な関係があります。 個性とじゃあがとても強くて自分の固執を捨てることができないので異言言うことを自ら阻んでいる人がいます。 異言に対する否定的な先入観、神学的偏見によって異言を言うことを自ら阻んでいる人もいます。聖霊バプテスマを受けても異言ができない人がいるのではなくしない人がいます。 異言を“聖霊バプテスマの初の証拠”と言うよりは聖霊バプテスマを受ける時一番多く現われる“普遍的な証拠”と言う表現がもっと適切です。そして一番重要なことは神様が聖徒に聖霊バプテスマをくださる主眼が “福音伝道”という事実を肝に銘じなければなりません。

聖徒の皆さんは皆が聖霊バプテスマを受けて異言で祈ることができるのを願って切に求めてください。 そしてすべて異言を言うように願います。